

## 【5】 実践事例

### ——授業づくり——

#### [1] 高等部の授業づくりについて

取り組みの構想で述べたように、われわれは「生活を楽しむ」に視点をあてた授業づくりの実践を、各研究教科・領域に重点をおいて行ってきた。昨年度は、年間指導計画を立てる際に、題材の選定が「生活を楽しむ」の視点に沿っているかどうか検討をし、その時々々に有効だった支援を記録に残しながら話し合いを進めてきた。そして、効果的だと考えられた題材の選定や支援の工夫をまとめていった。今年度は、高等部としての立場をさらに意識し、授業づくりのポイントをまとめながら実践に取り組んだ。

#### (1) 授業づくりに取り組むにあたっての基本的な考え

- 青年期にある一人ひとりの生徒の内面にも目を向けて、個性をより深くとらえる。
- 思考の揺れを大切にしながら、生徒が自分の考えを持つことを重視する。
- 主体的に活動に取り組むための支援を工夫し、積極性や自信につなげる。
- 社会参加を意識して、実生活に生きる内容ややり方を身につけていくようにする。
- その子なりの楽しみ方を増やしたり見つけたりする。

#### (2) 題材の選定と支援の工夫

##### ① 題材の選定

- 社会生活に近い経験ができ、実際に応用できるもの
- おとなになりつつある青年期の発達を題材にした内容
- 社会生活をする上で、いろいろな人との関わりがもてるもの
- 発達年齢を考慮しながらも青年期にふさわしい内容であるもの

##### ② 支援の工夫

- 青年期にある生徒たちの人格を尊重する。
- 葛藤場面に出合った時に、本人なりの方向を見つけていくのを待ったり助言したりする。
- 本人なりに納得して満足感の得られるような、題材や教材や場面を準備する。

#### (3) 「自己活動と思考の過程」「達成感・成就感」という視点から生徒に求める姿

- 人の意見を取り入れながら自分の考えを持つ。
- 自己認識に基づいた思考をしていく。
- 自己決定したことに、見通しを持って取り組む。
- 目的意識を持ちながら最後までやりとげる。
- できばえを自分なりに評価して、達成感や成就感を持つ。

以上のような考えを確認しながら、個に応じた支援のあり方も検討していった。

表 1-3 自分づくりの段階に沿った「自分の考えを持ち、活動のなかに喜びをみいだす生徒」の姿

自分づくりの段階	生徒名		めざしている姿	変遷の工夫
	1年	2年		
自己意識 (9歳～)	※自分を多面的にとらえる ※大人扱いが当然	(11-4, 8-0) M 男	・その活動の価値が分かり、目的意識を持って取り組む。 ・自分の得意不得手を知り、自分なりに工夫や努力をする。	・一人の仲間として、理想像、価値観、目的意識等について語る。 ・手本や指針になるような言動を心がける。
自己親親の芽生え (5歳後半)	・自分づくりの始まり ※他律的、一面的に自分をとらえる ※大人らしくなくなる	H 男 (9-5, 7-4) S 男 (10-0, 6-0) L 男 (7-6, 4-9) I 男 (10-5, 5-4) (9-3, 4-7) (7-3, 6-2)	・裏面の中で自分の立場が分かり、役割を果たすことに喜びを持つ。 ・かんだり先のことにも楽しみにすることができ、見通しを持って取り組みをする。 ・集団の中の一員としての自覚を持ち、回りの状況に合わせながら活動をする。	・考えをじっくり聞いて、待つ。 ・集団の中で、役割を持って活躍する場を作る。 ・かんだり先まで見通した取り組みが促めるように具体的に予定等知らせる。 ・自分のよりよい姿をイメージできるように具体的に手本を示す。 ・集団の中で友達と関わりながら活動する場をできるだけ多く作る。
自制心の形成 (5歳半)	・「～だけどう～しよう」という意思を持つ。 ・自分なりの思いを伝えて、活動に意味付けができる。 ・できるだけ自分でやろうとし、困ったら次の手立てを考えて行動することができる。	G 男 (8-3, 7-0) O 男 (11-4, 6-9) K 男 (9-2, 8-4) (8-4, 6-9) B 男 (8-10, 4-7) A 男 (9-10, 6-8) E 男 (6-2, 6-2) C 男 (7-5, 4-7) (7-8, 6-7) J 男 (5-0, 2-4) R 男 (9-1, 1-10) (4-8, 2-3) F 男 (4-7, 2-4) P 男 (9-1, 2-1)	・評価を期待しながら意欲的に活動する。 ・場に応じて、自分の気持ちをコントロールしながら活動をする。	・自分が取り組む活動の目的や内容を文字や言葉にして確認する。 ・一緒に活動し、最後まで取り組むよう励ます。 ・活動をやり遂げるたびにその価値を話し、賞賛や励ましをする。 ・失敗の原因や次の手立てを一緒に考える。
自制心の芽生え (3歳後半)	・自我をコントロールできなくなる ※大人になりたがる	A 子 (6-3, 4-4) D 男 (4-7, 2-4)	・周囲の状況や評価を意識して、自分なりに活動する。 ・少し先のことを楽しみにしながら、今をがんばる。	・活動の意図を分かりやすく話し、目標に沿った具体的な評価をする。 ・少し先のことを話し、今の活動ががんばるよう声をかける。 ・本人の意思を大事にしながらか、その思いを活動に生かす。
自我の拡大・元来 (3歳前半)	・もう一人の自分できはじめ ※大人扱いを受け止める		・周囲の状況や評価を少しは意識して、自分なりに活動する。 ・いろいろなことに取り組みながら、好きなことを増やす。 ・少し先のことを楽しみにする。	・いくつもの具体的な選択肢を準備する。 ・好きな活動を準備し、時間を保障する。 ・本人の伝えたいことをくみ取る。 ・少し先の本人の好きな活動を具体的に話す。
自我の誕生 (1歳半)	・感情・意欲の芽生え		・奨励を受けながら自分の好きなことに取り組む。	・思いを引き出すために、2～3の具体的な選択肢を準備したり、声かけをしたりする。

※ ( ) 内の数値は、左はS.A(S-M)社会生活能力検査による) 右はM.A (田中ビネー知能検査による)



#### (4) 各研究場面での授業づくり

われわれは、各研究場面での授業づくりを次のように考えて実践した。

##### ① 生活一般

生活一般では、生活に役立つ実践的な力をつけたいと考える。この力をつけることによって自己活動できる場が広がることは、生活を楽しむことにつながると思われる。また、自己認識を深めると同時に、将来の進路を見据えながらより主体的に生きていく姿勢を形成したい。そして、お互いに認め合う温かい雰囲気の中で、生徒の思いや考えが生かされるような授業に心がけたい。

本年度は、生活一般の指導項目を整理し、題材の精選と各学年のつながりを明確にすることに努めた。しかし、生活一般の内容は、行事に関わる単元から、家庭生活・社会生活美術、性教育、同和教育、進路に関わる学習等まで、依然として多岐にわたっており、今後も検討が必要である。

なお、自分の進路に目を向け働くことの楽しさに気づいた実践、目的を意識し「作るおもしろさ」「食べる楽しさ」「人と分かち合う喜び」を味わった調理活動の実践、青年期にある生徒の思いと主体性を生かした校外宿泊学習の実践をP120より記している。

##### ② 職業科

職業科では、いろいろな作業に自分なりに目的意識を持って取り組み、最後までやり抜く態度や技能を育てる。見通しを持ち、主体的に働く意欲を育てるために、目標設定や評価を丁寧にしていく。さらに、職業で培った力を校内職業実習や現場実習で発揮することにより、社会参加への自覚と意欲を培っていききたい。

本年度は、新たに農園コースをおこしたり、印刷コースを紙工コースと呼び変えて、年賀状や名刺の印刷に加えて和紙を利用した製品作りにも取り組むようにしたりして、より生徒の実態に応じた活動が組めるようにした。

一人ひとりが目的意識を持ち丁寧に作業に取り組んだ陶芸コースの実践について、P129より掲げている。

##### ③ 選択学習

選択学習では、好きな活動に没頭して取り組めるような授業づくりをしたい。そのために、指導の意図を持ちながら本人の希望も生かしたコース選択をする。そして、授業の中で活動に集中しながら技能を身につけていくようにしたい。さらに、家庭・地域社会と連携をとりながら、身につけた技能を実際の生活の場で生かす機会をつくり、生きた力として定着できるようにしむけていきたい。

作品作りの喜びを味わいながら、主体的に活動に取り組んだ木工芸コースの実践について、P133に述べる。

##### ④ 特別活動（学部集会・ホームルーム活動）

生徒の自主性を最大限に尊重した学部集会・ホームルーム活動を運営する。教師は意図を持ちながらも、話し合い活動・準備・当日の運営を生徒が中心になって進めるようしむけ、生徒が自分たちの手でやり遂げた満足感を持てるようにしたい。生徒たちが自主的に運営した集会活動の実践をP137より述べている。

（河田祐子）